

科目名	教職実践演習		科目 コード	W61019		単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	4年	開講 学期	後期
区分	教職科目	必修	担当者名	佐々木 正晴 原 圭寛	立花 茂樹 佐藤 萬昭			授業 形態	演習	オムニバス	
授業の 概要	〔キーワード：教職の意義、実践的指導力、問題解決能力、ロールプレイング〕 教員免許状の取得に必要な教科に関する科目、教職に関する科目等を履修し終えた段階において、これらの知識・技能を総合して、学校において生じる諸問題に対処できる力を養う。その際、それぞれの場面において特に求められる力を確認すると同時に、教員として持たなければならない知識・技能・態度等が確実に習得されているかどうかを確認し、これまで習得した知識・技能・態度等の総合化を図る。										
到達 目標	教員としての適切な知識・技能・使命感等を持ったうえで、教育現場において実際に指導できる能力を身につける。										
授 業 計 画											
回	主 題		授 業 内 容（授業時間外の学修を含む）						備 考		
第1回	オリエンテーション		これまでの学修を振り返る								
第2回	教育現場の問題		各自が実習中に感じた教育現場の問題点について報告する						担当：原圭寛		
第3回	実践的問題と教育学研究の架橋 ①		第2回の発表内容を基に関心が近い者同士でグループを組み、関連する教育学論文を収集のうえ、解決策を考える								
第4回	実践的問題と教育学研究の架橋 ②		第3回で各グループがまとめた解決策について発表し、その是非についてクラス全体でディスカッションを行う								
第5回	教科指導の実際 ①		教科ごとに模擬授業を行う						担当：佐々木正晴		
第6回	教科指導の実際 ②		現職教員と共に模擬授業の総括を行う								
第7回	特別活動指導の実際		学級における話し合い活動の進め方をロールプレイングで考える								
第8回	学級経営の実際 ①		学級開きと最初の一週間の取組について構想を練る（全体発表）						担当：佐藤萬昭		
第9回	学級経営の実際 ②										
第10回	生徒指導の実際 ①		いじめへの対応について考える（グループ討議・全体発表）								
第11回	生徒指導の実際 ②										
第12回	「道徳の時間」の指導		道徳資料を基に授業構想を練る（グループ討議・全体発表）						担当：立花茂樹		
第13回	保護者との対応		事例を読み、保護者との対応と協力関係の構築を考える（ロールプレイング・全体発表）								
第14回	障害のある生徒の指導		事例を読み、発達障害を有する生徒の指導を考える（グループ討議・全体発表）								
第15回	総括		・これまでの活動を通じて教師にとって必要なことを各自考え発表する ・教職履修ファイル「自己評価」欄の記入								
評価 方法 及び 評価 基準	各担当者の授業における発表または課題の提出を各25%ずつで評価する。授業の欠席は基本的に認められていないので注意すること。発表内容の判定評価は、主として発声、構成力、資料作成を中心とした評価とする。										
教材 教科書 参考書	教材として、受講者各自の「教職履修ファイル」を使用する。 また、適宜プリント等の資料を配付する予定である。										
留意点	本演習は、教職課程における最後の履修科目となる。心して取り組むこと。また、過去3年間にわたり「教職履修ファイル」を定められた期日に毎回提出し、チェックを受けている者のみ本科目の履修を認める。										

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(中学)		科目コード	W61013	単位数	5単位	対象学年	4年	開講学期	通年
					時間	75時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	佐々木 正晴 原 圭寛				授業形態	実習	複数
授業の概要	<p>〔キーワード：教育実習、現場体験〕 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。</p>									
到達目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)	備考			
第1回	事前指導	教育実習の意義		第16回	実習	教育実習				
第2回	事前指導	教育実習における留意点		第17回	実習	教育実習				
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話		第18回	実習	教育実習				
第4回	実習	教育実習		第19回	実習	教育実習				
第5回	実習	教育実習		第20回	実習	教育実習				
第6回	実習	教育実習		第21回	実習	教育実習				
第7回	実習	教育実習		第22回	実習	教育実習				
第8回	実習	教育実習		第23回	実習	教育実習				
第9回	実習	教育実習		第24回	実習	教育実習				
第10回	実習	教育実習		第25回	事後指導	各自体験報告				
第11回	実習	教育実習		第26回	事後指導	問題点を抽出				
第12回	実習	教育実習		第27回	事後指導	問題点について議論				
第13回	実習	教育実習		第28回	事後指導	今後の課題を抽出				
第14回	実習	教育実習		第29回	事後指導	今後の課題について議論				
第15回	実習	教育実習		第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす				
評価方法及び評価基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50%)と教育実習校返送評価点(50%)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
教材教科書参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教育実習(事前・事後の指導を含む)(高校)		科目コード	W61014	単位数 時間	3単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
						45時間				
区分	教職科目	必修	担当者名	佐々木 正晴 原 圭寛			授業 形態	実習	複数	
授業の 概要	<p>〔キーワード：教育実習、現場体験〕 中学校や高等学校で数週間教師として実習を行う。その前後に事前指導と事後指導があり、事前指導では講義や現役教諭の講演を通して教育現場の理解を深め、過去の教育実習で生じた出来事等をもとに留意事項を確認する。事後指導においては、実習の反省、情報交換を行う。</p>									
到達 目標	事前指導においては教育実習が支障なく進むよう留意事項を確認する。事後指導においては、教育実習での反省点を話し合い、教育現場および実習生の指導上の問題点について議論を行う。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む)			備考	回	主 題	授業内容(授業時間外の学修を含む) 備考		
第1回	事前指導	教育実習の意義				第16回	実習	教育実習		
第2回	事前指導	教育実習における留意点				第17回	実習	教育実習		
第3回	事前指導	現役中学校教諭による講話				第18回	実習	教育実習		
第4回	実習	教育実習				第19回	実習	教育実習		
第5回	実習	教育実習				第20回	実習	教育実習		
第6回	実習	教育実習				第21回	実習	教育実習		
第7回	実習	教育実習				第22回	実習	教育実習		
第8回	実習	教育実習				第23回	実習	教育実習		
第9回	実習	教育実習				第24回	実習	教育実習		
第10回	実習	教育実習				第25回	事後指導	各自体験報告		
第11回	実習	教育実習				第26回	事後指導	問題点を抽出		
第12回	実習	教育実習				第27回	事後指導	問題点について議論		
第13回	実習	教育実習				第28回	事後指導	今後の課題を抽出		
第14回	実習	教育実習				第29回	事後指導	今後の課題について議論		
第15回	実習	教育実習				第30回	総括	これからの人生に教育実習を生かす		
評価 方法 及び 評価 基準	事前・事後指導出席点とレポート評価点(50%)と教育実習校返送評価点(50%)を総合的に勘案して評価する。特に、教育実習に自ら主体的に取り組んでいるかどうか、実習生として相応しい見識と能力を身につけているかどうか、の2点を重点的に評価する。									
教材 教科書 参考書	教育実習ファイル(事前指導初回に配布)									
留意点	事前指導、事後指導に正当な理由なく欠席すると、教育実習をしても単位を認定しないので注意すること。									

科目名	教育実習（特別支援）		科目コード	W71014	単位数 時間	3単位 45時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
区分	教職科目（特別支援）	必修	担当者名	立花 茂樹・佐藤 真一				授業 形態	実習	複数
授業の 概要	[キーワード：教育実習の意義、観察・参加、個別の指導計画、自立活動、学習指導案、チームティーチング] 知的障害、肢体不自由、病虚弱の特別支援学校で数週間の教育実習を行い、その前後に事前・事後の指導を行う。事前指導では講義や映像資料を通して教育現場への理解を深め、教育実習に臨む心構えを学ぶ。事後指導では実習全般及び研究授業等についての反省と情報交換を行う。									
到達 目標	1 教育実習に臨むための留意事項を確認し、教育実習生としての心構えを持つ。 2 教育実習生としての立場を踏まえながら、積極的な教育実習生生活を送る。 3 教育実習及び他の講義・演習等を通して、将来の特別支援学校教員としての意識を高めるとともに、必要な専門性を身につけ、あるべき教師像を持つ。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）							備考	
第1回	事前指導① 教育実習（特別支援教育）の意義	ガイダンス 教育実習の目的と意義								
第2回	事前指導② 特別支援学校教員の一日	教職員の勤務、服務、授業、学級事務等								
第3回	事前指導③ 学習指導案の作成	サンプルを基にした学習指導案の作成と発表・協議								
第4回	事前指導④ 模擬授業	作成した学習指導案による模擬授業の実施・協議								
第5回	事前指導⑤ 記録の作成と活用	実習日誌の記入や記録の取り方・活用の仕方								
第6回 ～ 第27回	特別支援学校における教育実習	実習校における教育実習（研究事業・授業研究を含む）								
第28回	事後指導① 教育実習の成果と課題	教育実習により得た成果と課題等をまとめる							レポート作成	
第29回	事後指導② 実習の体験発表	「レポート：特別支援学校の教育実習で学んだこと」の報告								
第30回	事後指導③ まとめ	「目指す教師像」をまとめる								
評価 方法 及び 評価 基準	○教育実習校の評価（70%）と事前・事後指導の演習・発表・レポート（30%）を加えて総合的に判断する。									
教材 教科書 参考書	○教科書：用いない。 ○教 材：学内資料『教育実習（特別支援学校）の手引』を配布する。									
留意点	○実習校の校長、教頭、教育実習主任、指導教員の指導・助言を素直に、かつ誠実に受け止めるよう努めること。 ○社会人としてふさわしい態度・服装・言葉遣いに留意すること。 ○「豊かな発想、確かな指導力」を念頭に、教員としての資質能力を高めるよう、積極的な学習参加を期待する。 ○予習：シラバスを見て、次時の内容に関する「実習の手引」の該当箇所を読み、考えをまとめておく。 指示された課題の事前準備を行う。 ○復習：その日の学習内容に関するポイントをまとめる。 ※特別支援学校学習指導要領とその解説は常に持参すること。									